

通し番号	5169
------	------

分類番号	R04-97-32-09
------	--------------

三崎漁港二町谷地区での短期イワガキ養殖の可能性	
<p>[要約] イワガキの短期養殖の可能性を探るため2021年11月～2022年3月の期間に、イワガキ2歳貝132個体および3歳貝種苗188個体を水深1、3、5mに垂下し養殖試験を行った。密度は1カゴあたり6～12個体とした。殻長、重量、水質、貝毒プランクトン等を毎月1回調べた。成長率は2歳貝が78.8%、3歳貝が21.3%であった。生残率は96%と非常に高かった。貝肉に含まれる貝毒成分（マヒ性、下痢性）、大腸菌、腸炎ビブリオは基準値以下であった。短期間の試験結果ではあるが、イワガキの良好な成長を確認した。短期養殖（蓄養）による地場産業化について検討の価値があると考えられた。</p>	
神奈川県水産技術センター・企画研究部	連絡先 046-882-2314

#### [背景・ねらい]

三浦半島地区の漁業振興と漁港区域の高度利用を目的として、三浦市二町谷海面での短期イワガキ養殖の可能性を探るため、冬季に4か月間の短期養殖を試みた。

#### [成果の内容・特徴]

- 2021年11月～2022年3月に、長崎県産イワガキ2歳貝種苗計132個体および3歳貝種苗計188個体を用いて、三浦市二町谷海面にある「みうら海王海上つり掘施設」から種苗を収容した養殖試験カゴを水深1、3、5mに垂下して試験を行った。種苗の収容密度は6～12個体とした（図1）。およそ1か月間隔で殻長、殻付き重量、水質、貝毒プランクトン等を調べた。貝肉の貝毒成分（マヒ性、下痢性）、大腸菌および腸炎ビブリオを12月と3月に調べた。
- 2歳貝の平均重量は、試験開始時の11月に52gであったものが3月に93gとなり、成長率は78.8%であった。3歳貝では、11月の平均重量が169gであったものが3月に205gとなり、成長率は21.3%であった（表1、図2）。成長率は京都府と神奈川県から報告されている過去の値と比べて高かった。生残率は2歳貝、3歳貝ともに96%と高かった。安全性についてマヒ性貝毒、下痢性貝毒、大腸菌および腸炎ビブリオは規制値以下であった。
- 試験期間中の水温は13～20℃、塩分は33.5～34.6であった。各月の鉛直分布に明瞭な差はなかった。クロロフィルaは水深1mで0.4～2.2μg/L、3mで0.4～2.4μg/L、5mで0.5～2.4μg/Lの範囲であり、3月を除き鉛直分布に明瞭な差はなかった。貝毒原因種である*Dinophysis acuminata*と*Dynophysis caudata*はいずれも11月に出現したが、最大でも5細胞/Lと少なかった。

#### [成果の活用面・留意点]

- イワガキの短期養殖（蓄養）による地場産業化について検討の価値がある。
- 冬季の4か月間のみ結果であり、事業化の検討のためには出荷時期である夏季まで試験を行う必要がある。

[具体的データ]



図1 試験カゴに収容したイワガキ種苗



図2 養殖試験終了日（2022年3月15日）の試験員の外観

表1 試験期間中のイワガキの成長（平均殻付き重量ベース）

種苗	平均殻付き重量の成長（g）						成長率（%）
	11月11日	11月30日	12月21日	1月18日	2月15日	3月15日	
2年貝	52±15	56±14	65±16	78±15	81±20	93±24	78.8
3年貝	169±24	173±22	181±23	198±26	193±24	205±26	21.3

[資料名] 令和3年度三崎漁港二町谷地区における貝類養殖試験業務報告書

[研究課題名] 三崎漁港二町谷地区における貝類養殖試験

[研究期間] 令和3年度

[研究者担当名] 木下淳司

[協力・分担関係]本研究は水産課の行政課題に対応して行った。業務は（株）日本海洋生物研究所に委託した。現地調査は毎回当所研究職員が立会い行った。